

DAAD-Kyoto Partnership Programme ～設立の経緯、そしてURAとして目指すもの～

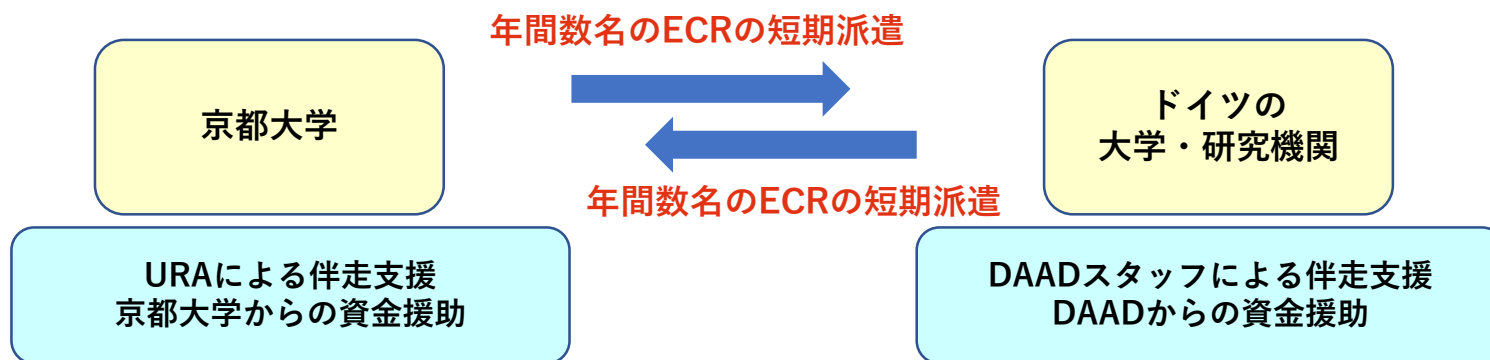
- ・ 桑田治 (京都大学 学術研究支援室 URA)

概要： DAAD – 京都大学パートナーシッププログラムについて（2018～）

若手研究者（Early Career Researcher: **ECR**）のモビリティ向上を通じて、京都大学とドイツの高等教育・研究機関間において**国連の持続可能な開発目標（SDGs）貢献に資する**多様な学術研究分野の協力関係を構築することを目的とする。

対象者 若手研究者 = ECR：博士課程学生から博士学位(Ph.D.)取得後 5年以内までの研究者

スキーム



Type 1：京都大学とドイツの大学・研究機関から若手研究者(ECR)を双方向で派遣

Type 2：京都大学からドイツの大学・研究機関へ若手研究者(ECR)を派遣

Type 3：ドイツの大学・研究機関から京都大学へ若手研究者(ECR)を派遣

使途 旅費、滞在費、学会等参加費

資金 DAADと京都大学からそれぞれ総額20.000EUR(約240万円)／年を拠出（マッチングファンド）

DAAD-Kyoto Partnership Programme ～設立の経緯、そしてURAとして目指すもの～

経緯：DAAD – 京都大学パートナーシッププログラム設立まで

2016年

京都大学
学術研究支援室 (KURA)

DAAD
(ドイツ学術交流会)

2017年

12月 京都大学欧州拠点 (ハイデルベルク) と DAAD (ボン) の間で、
パートナーシップ構築に向けた最初の提案・意見交換

2018年

【間 AI DA】チーム発足

先行して京大からドイツへ若手
研究者を短期派遣
2017年度: 4件、2018年度: 6件

双方向のパートナーシッププログラム
構築へ向けた交渉を継続

2019年～

6-7月
最初の共同公募実施

2018年6月
MoU締結

6-7月
最初の共同公募実施

ドイツへの若手研究者の派遣

京都大学への若手研究者の派遣

～2021年

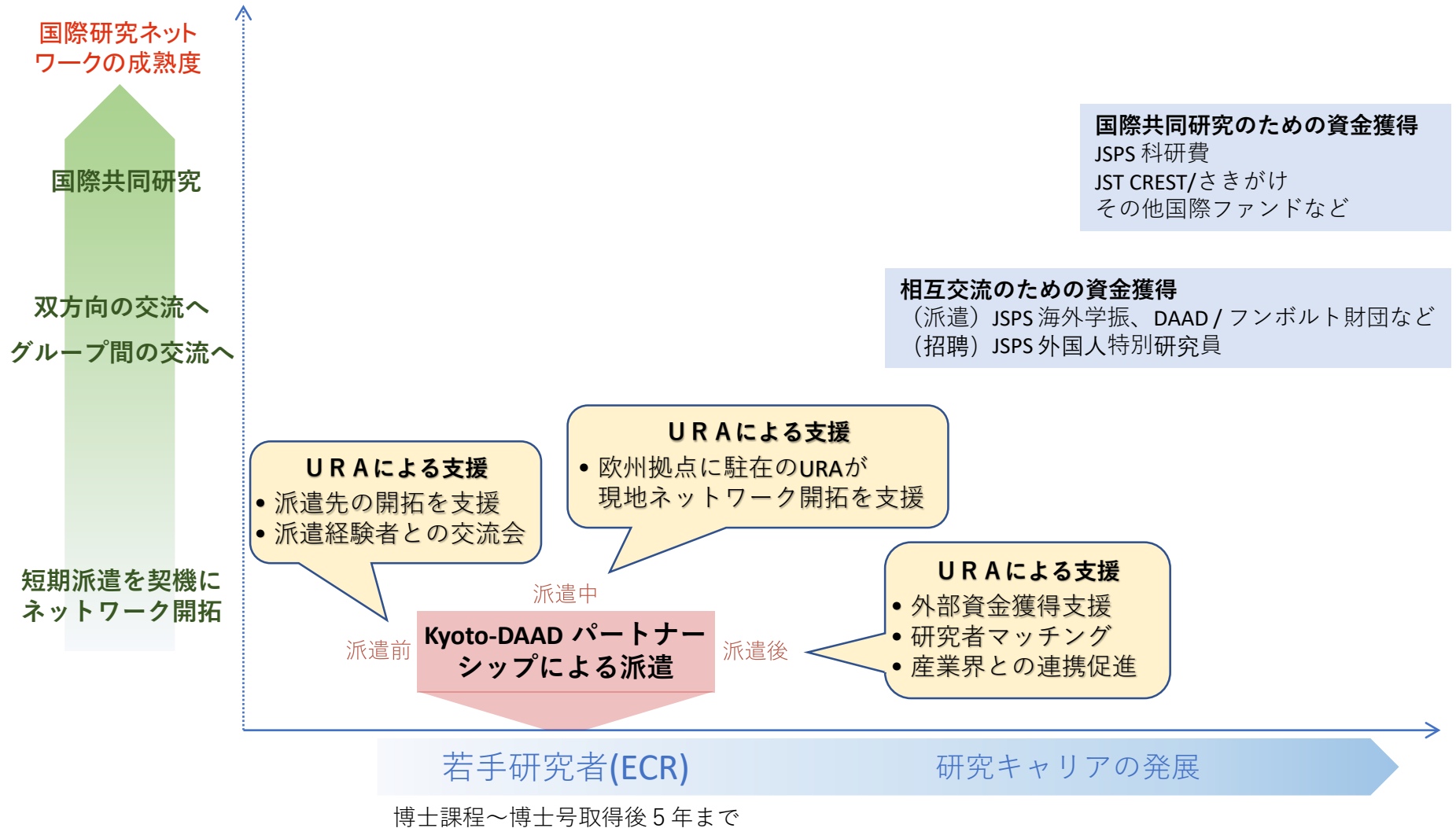
- ・ 国際共同研究の推進
- ・ 外部資金の獲得
- ・ 海外の優秀な研究者の呼び込み

～2030年

国連2030年アジェンダ
持続可能な開発目標 (SDGs) への貢献

DAAD-Kyoto Partnership Programme ～設立の経緯、そしてURAとして目指すもの～

設計：本プログラムにおけるURAからの若手研究者への支援と期待される展開



実績：ドイツへの若手研究者の派遣を支援（2017～2018年度）…10研究プロジェクト

成果公開のためのポータルサイトを開設して内外へ情報発信中：<https://www.oc.kyoto-u.ac.jp/exchange/kyoto-daad-reports/>

3次元細胞組織への細胞内デリバリー法の開発を目指して



秋葉 美沙穂
理学研究科 博士後期課程
受入先：ヘルムホルツ研究所（ミュンヘン）(Helmholtz Zentrum München)
訪問時期・期間：2019年3月5日～3月15日

超平面配置の組合せ論とシンプレクティック代数幾何学の複合的研究



長岡 高広
理学研究科 数学教室・博士後期課程
受入先：Max Planck Institute for Mathematics in the Sciences (Leipzig)
訪問時期・期間：2018年9月14日～9月30日

高度な生体外ヒトモデル「Body on a Chip」の日独共同開発を目指して



亀井 謙一郎
iCeMS・准教授
訪問先：
- カールスルーエ工科大学
- ハイデルベルク大学生物学研究所
訪問時期・期間：2018年3月4日～10日

知識フローの学術情報流通へ向けた学術情報のナレッジグラフの構築と応用を目指して



西岡 千文
附属図書館・助教
受入先：TIB - Leibniz Information Centre for Science and Technology and University Library ほか
訪問時期・期間：2019年1月16日（水）～2019年2月1日（金）

ドイツにおける交通社会の専門家とのネットワーク再構築を目指して



ヤン・ディーク・シュメッカー
工学研究科 都市社会学専攻 准教授
訪問先：
- カールスルーエ [企業]
- ワイン経済大学
- ミュンヘン工科大学など
訪問時期・期間：2018年3月（2.5週間）

細胞のがん化を防ぐ「細胞老化」の可能性を探る



石川 正真
生命科学研究所・研究員
訪問先：
- ケルン大学の老化研究エクセレンスクラスター (CECAD)
訪問時期・期間：2017年11月末～12月中旬（2週間）

コンデンシ分子モーターの歩進メカニズムの解明を目指して



寺川 剛
理学研究科・助教
受入先：欧州分子生物学研究所 (European Molecular Biology Laboratory)
訪問時期・期間：2018年12月2日～12月11日

代謝の活性化機構の計測・制御と抗生物質の高速合成システム開発を目指して



眞和也
工学研究科 准教授
訪問先：
- カールスルーエ工科大学
- 同、機能構造技術研究所
訪問時期・期間：2018年3月15日～18日

放射線療法と免疫治療を組み合わせた新たながん治療法の開発にむけて



渡邊 賢
原子学実験室 助教
訪問先：
- ECRF (欧州分子生物学研究所)
- DRFZ (ドイツがん研究センター)
訪問時期・期間：2017年9月（約2週間）

成果：外部資金獲得やネットワーク形成（2017～2018年度）

○ H30年度科研費の獲得
国際共同研究B採択

○ 産業界とのネットワーキング
大阪国際サイエンスクラブの招待講演

○ 大学間ネットワークの強化
HeKKSaGOnの再生可能エネルギー分野強化

代謝の活性化機構の計測・制御と抗生物質の高速合成システム開発を目指して



眞和也
工学研究科 准教授
訪問先：
- カールスルーエ工科大学
- 同、機能構造技術研究所
訪問時期・期間：2018年3月15日～18日

高度な生体外ヒトモデル「Body on a Chip」の日独共同開発を目指して



亀井 謙一郎
iCeMS・准教授
訪問先：
- カールスルーエ工科大学
- ハイデルベルク大学生物学研究所
訪問時期・期間：2018年3月4日～10日



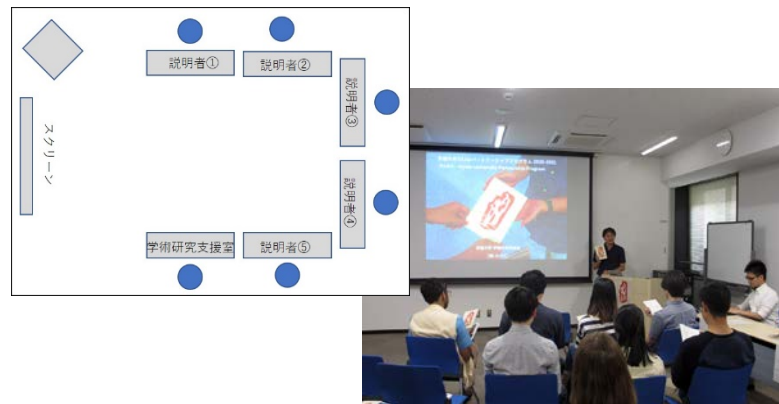
展開：内外でのネットワーキングの機会の提供

▶ 学内での公募説明会・交流会の開催

第1回開催 2019年6月20日・第2回開催 2019年7月2日
※次年度派遣へ向けた公募を実施中（締切り9月17日）

プログラム

前半 プログラム運営者(URA)からの公募事業説明
前半 プログラム利用者による経験談・活用事例の紹介
後半 個別相談会・ネットワーキング交流会



▶ RA協議会 セッションの開催（本日！）



派遣者が帰国後に相互に繋がる場を設け、
意欲ある若手研究者をさらに呼び込む

大学（URA）と財団・社会が連携し、
若手研究者支援の機運を醸成する